



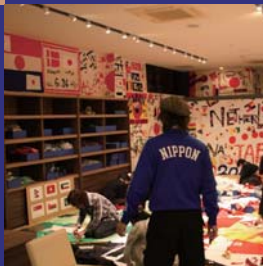
2006  
World Cup  
in Germany



2010  
World Cup  
in South Africa



2014  
World Cup  
in Brazil



2018  
World Cup  
in Russia



## 「アジア代表」プロジェクトとは ...



日本はアジアの国々と試合を行い「アジア代表」としてワールドカップ出場を目指します。この対戦を九州・福岡から応援しようと2006年に立ち上がった「アジア代表日本」は、サッカーを文化と捉え、スポーツとアートの融合を目指したアートプロジェクトです。

2006年ドイツ大会、2010年南アフリカ大会、2014年ブラジル大会と、これまでに3回にわたって実施しました。市民参加型のワークショップを基本とし、10、14年では、マッチフラッグ制作を行い、W杯の試合会場でフラッグを通してサポーターの思いを世界に届けてきました。国際交流基金アジアセンターの支援を得て、アジア各国での展開を含む活動として2018年ロシア大会に向けて、ASEAN地区での活動をスタートします。

最新の情報をチェック！

[asia-daihyo-nihon.jp](http://asia-daihyo-nihon.jp)

アジア代表

検索

いよいよいよいよ始動！！  
アジア代表プロジェクト、アジアへ

サポーター  
募集中！！



となりと一緒にものをつくと、となりのことを想う。となりのことを想うと、となりと一緒に応援する。  
となりと一緒に応援すると・・・となりとここの新しいなにかが生まれる。

## アジア代表はワークショップを通じてサッカー文化を発進します



### 2つの国を、1つの旗に “マッチフラッグ”ワークショップ

マッチフラッグとは一枚の布のうえに、試合をする両国の国旗をモチーフにし、作る旗のことです。ピッチ上で対戦する選手たちのように、2つの国のサポーターが1枚の布のうえで交流します。フェアプレーを尊重するサッカーの精神を尊び、ピッチ上でそれを表現する選手たちにマッチフラッグでエールをおくりましょう。

日本のモチーフ



カンボジアのモチーフ



旗づくりの工程に  
各国の伝統工芸  
「染」技法を採用



技術協力：福田屋染物店

### 「アジア代表」プロジェクト プロデューサー



アーティスト  
東京藝術大学美術学部先端芸術表現科教授  
日本サッカー協会理事

**日比野 克彦**（ひびの かつひこ）

1958年岐阜市生まれ。東京藝術大学大学院修了。  
'80年代ダンボール作品で注目され、'82年に第3回日本グラフィック展大賞受賞。近年では、地域の人々と制作を行いながら、受け手の力に焦点を当てたアートプロジェクトを展開している。主なプロジェクトには、'03~「明後日新聞社文化事業部」「明後日朝顔」'06~「アジア代表日本」'07~「種は船」'10~「海底探査船美術館」等がある。現在、東京芸術文化評議会評議員・岐阜県美術館館長を務める。

### 2015年～ ワークショップ スケジュール

8月	8・9日	太宰府天満宮 絵馬堂(福岡)
9月	13日	太宰府天満宮 絵馬堂(福岡)
	27日	鳥屋野湯・タソカレテラス(新潟)
10月	7日	工房まる(福岡)
	10日	レベルファイブスタジアム(福岡)
11月		シンガポールでワークショップ(予定)
		カンボジアでワークショップ(予定)
1月		国内ワークショップ多数(予定)

主催： 国際交流基金アジアセンター／アジア代表日本実行委員会

#### 〈国際交流基金アジアセンターとは〉

国際交流基金は全世界を対象として総合的に国際文化交流事業を実施している日本で唯一の団体です。2014年にアジアセンターを新設し、同センターではアジアの中で人と人をつなげ、ネットワークをひろげ、アジアの文化をともにつくることを目指しています。東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年に向けて、音楽・演劇・映画・美術やスポーツまで様々な分野で事業を実施しながら、アジアの人々の交流活動を応援しています。2015年より ASIA DAIHYO(アジア代表)を共催し、さらに充実したプロジェクトとなるよう、盛り上げていきます。

**ASIA center**  
JAPAN FOUNDATION

〈お問い合わせ〉

[info@asia-daihyo-nihon.jp](mailto:info@asia-daihyo-nihon.jp)

Facebookページや Twitter も  
ご覧ください。